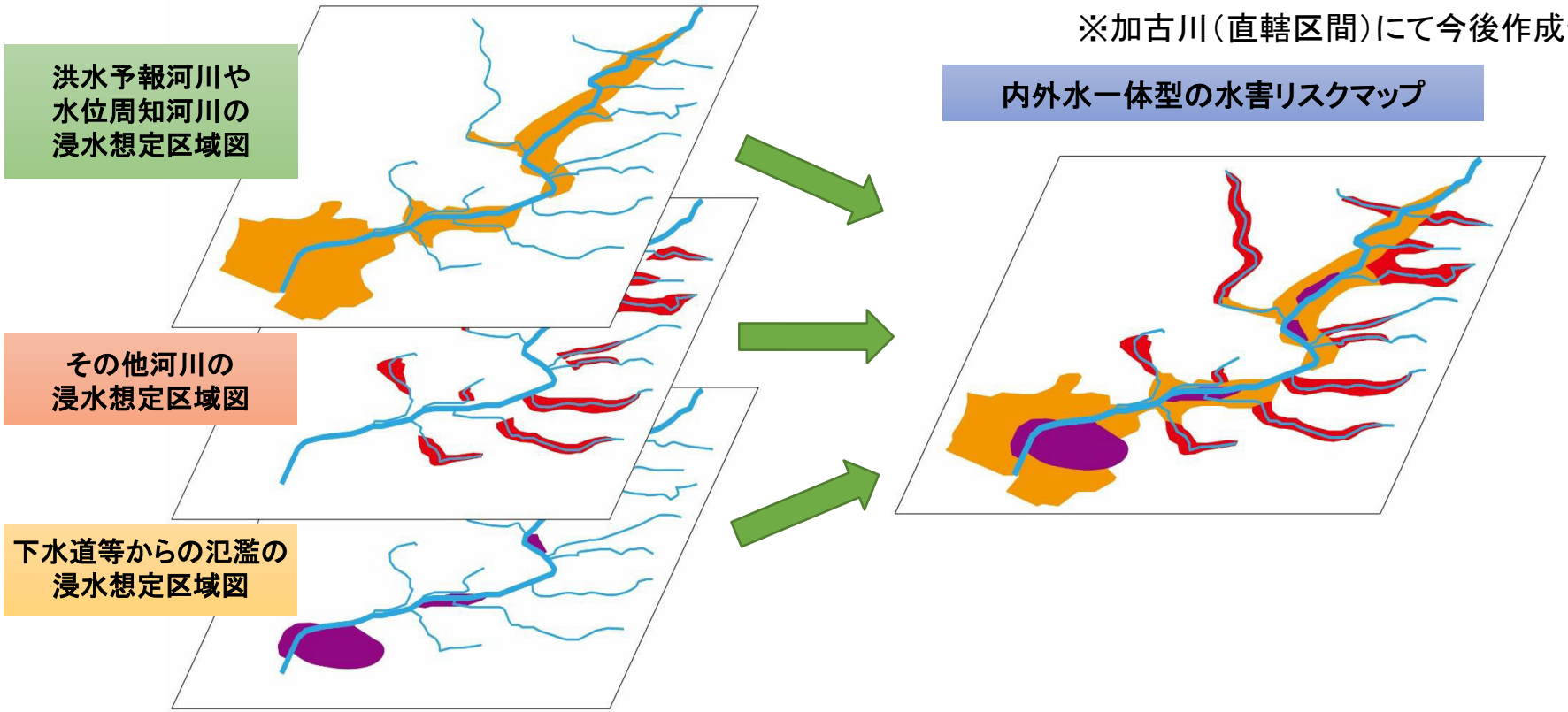
内外水一体型の水害リスクマップについて

○洪水予報河川や水位周知河川のみならず、その他河川や下水道等からの氾濫を明らかとすることで、**水害リスク情報の空白地の解消が重要**。
○現在管理者別に作成・提供されている浸水ハザード情報図について、**洪水予報河川や水位周知河川の氾濫、その他河川の氾濫（外水氾濫）、下水道等からの氾濫（内水氾濫）を重ね合わせ**て表示。

内外水一体型の水害リスクマップ作成



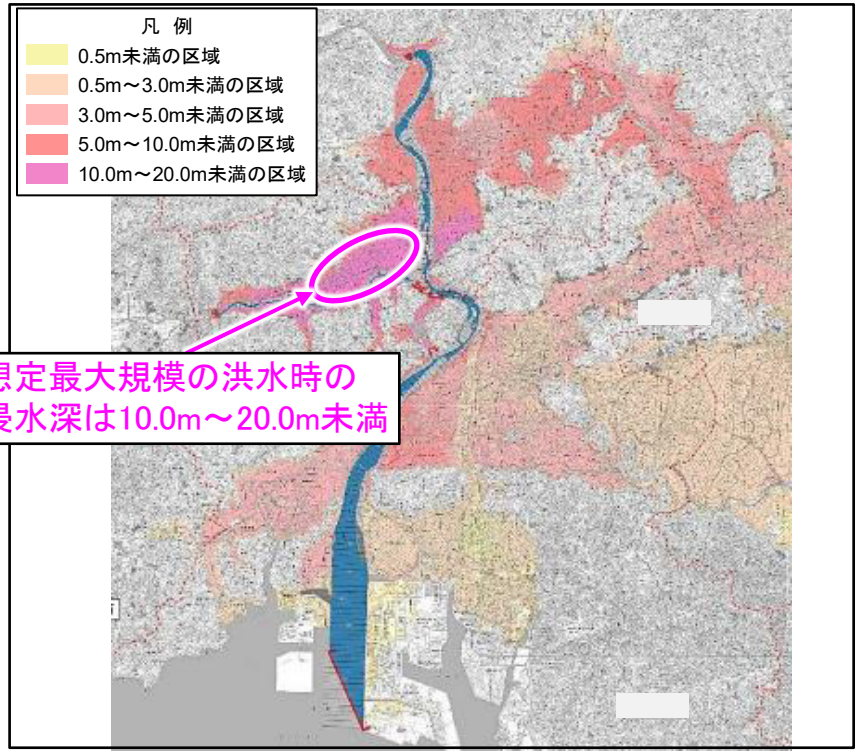
※加古川（直轄区間）にて今後作成予定

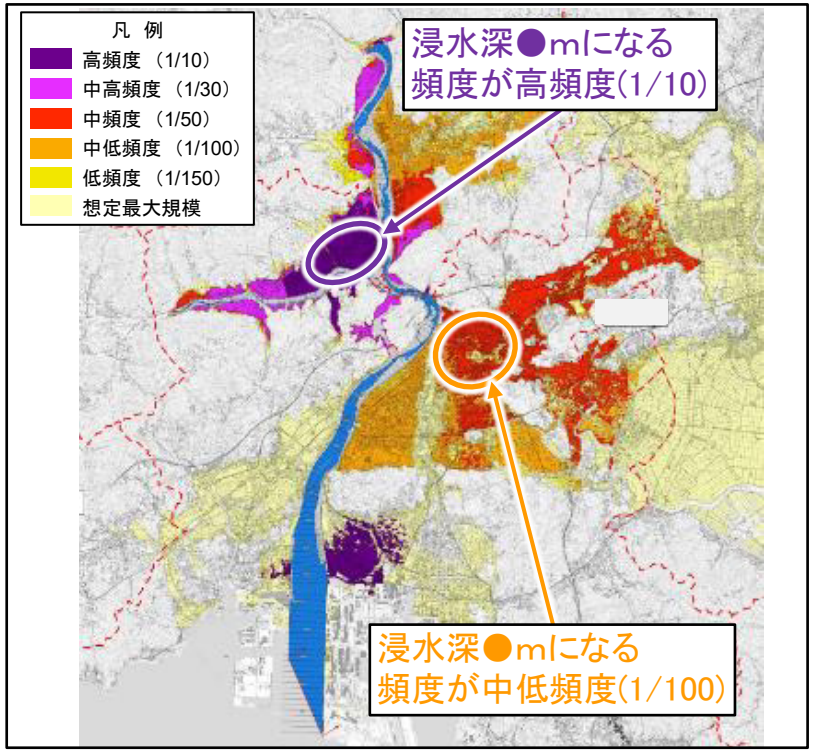
内外水一体型の水害リスクマップ（概念図）

【参考】洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い

近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

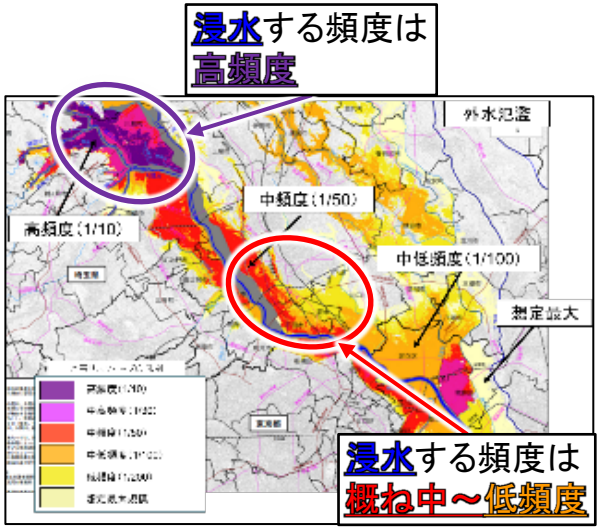
	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ （浸水頻度図）
表す情報	浸水範囲、浸水深（m）	浸水範囲、浸水頻度（〇〇年に1度程度）
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨
河道の時点	現在	現在及び河川整備後



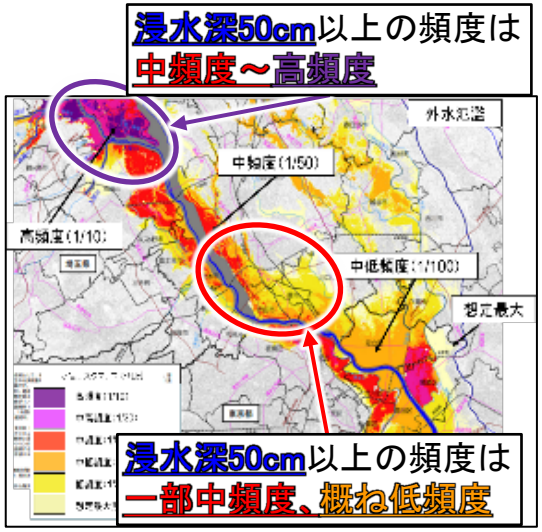


【参考】水害リスクマップの見方・活用事例

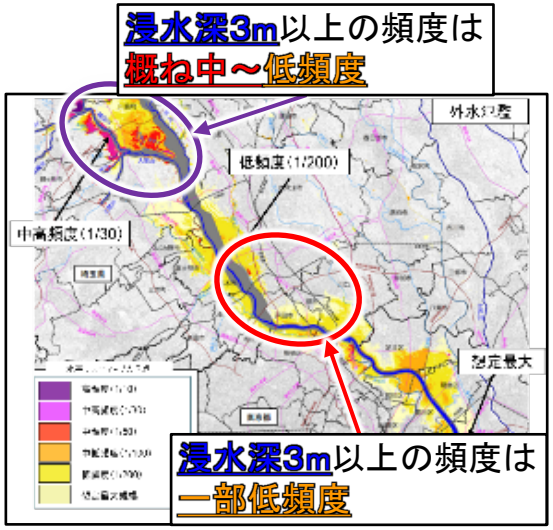
近畿地方整備局
姫路河川国道事務所



①浸水する範囲



②浸水深50cm以上
（床上浸水相当以上）



③浸水深3m以上
（1階居室浸水相当以上）

3つの図を並べて見比べる

⇒【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】
居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

⇒【企業立地選択等に利用する場合】
浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

⇒【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】
立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。